

# 震災から生まれた交流

## —東日本大震災から5年

5年前の3月11日に起きた東日本大震災は、特に岩手県、宮城県、福島県の3県に大きな被害をもたらしました。現在でも福島原発事故の影響で故郷に戻れない地域があるのが現実です。震災をめぐる最近の老人クラブ活動について、一端をお伝えします。

### 交流



岩手県宮古市老連  
大阪府老連

大阪府老連では平成25年10月に続き、27年9月に「東日本大震災復興支援ツアー」として22名が訪問しました。



岩手県山田町老連  
秋田県潟上市老連

平成23年10月、秋田県に招いたことを皮切りに、毎年行ったり来たりの交流を重ねています。昨年11月は秋田県で開催しました。



宮城県石巻市老連  
兵庫県老連

兵庫県老連が平成24年2月に石巻市老連24名を招待したのをきっかけに、27年7月には石巻市老連を訪問して交流研修と被災地視察を実施。



宮城県石巻市老連  
京都府老連

平成25年10月に京都府老連が石巻市老連を交流研修会に招待、27年11月には石巻市老連から交流研修会の誘いがあり再会しました。



福島県いわき市老連  
東京都東村山市老連

東村山市老連68名は平成27年10月、市老連創立50周年記念交流研修会としていわき市を訪問。市内勿来地区老連を中心に震災体験交流の後、親交のある障害者施設・岬学園8名も交えて演芸交流をしました。

### 支援



大阪市港区老連

震災の年に街頭募金を行って義援金を届けて以来、翌年からは「さんま祭り」を開催して収益金を岩手県大船渡市へ贈っています。昨年10月にも三陸沖（大船渡）のさんま1500尾を焼き、中学生も参加して盛況のうちに終えました。

### 被災地から

岩手県陸前高田市老連

災害公営住宅に入居した高齢者に対して、市長と市老連会長連名の友愛支え合い事業実施のチラシを持参して、見守り・安否確認の活動を始めました。



宮城県東松島市老連

震災後は「みんなで一緒に元気になるましよう」を合言葉に活動、23クラブから35クラブになり、震災前

の会員以上に増やそうと活動中。災害公営住宅にて24名の新設クラブも。



仙台市老連

震災から毎年、複数の県外老人クラブ女性部の方から「私たちは忘れていません」などメッセージ入りの様々なプレゼントが届き、会員に渡しています。震災記録誌は5年目の3月11日に発行予定。復興は進みつつありますが、心の復興にはまだ時間がかかるようです。

福島県南相馬市老連

昨年8月、東日本大震災・原発体験文集「私たちの記憶〜子どもや孫たちに語り継ぐために」(128頁)を発売。現在も居住制限地区があるなか、41名の体験を掲載。



福島県楢葉町老連

原発事故による避難指示解除(昨年9月)に先立ち、会員に対して今後の意向調査(660世帯対象)を実施。解除後帰る世帯は58%、クラブ活動を続ける・続けたい回答は50%というきびしい状況。希望する活動は「お茶のみ、談話、軽運動などのサロンの活動」が66%でした。